

江戸時代の長崎貿易＜貿易都市長崎の成立＞

コース・専攻：国際交流・協力

グループ名：江戸時代の長崎貿易

メンバー：名定博、坂本智美、前田孝

指導員：水野マリ子先生

1. テーマ選定の理由

長崎はポルトガルとの貿易港として開港し、「鎖国」以後の江戸時代には、唯一オランダ・中国との貿易港であった。そして出島・唐人屋敷に暮らすオランダ人・中国人との交流もあった。そのような、「江戸時代の貿易都市長崎」について「その成立」を調査研究した。

2. 学習内容

I 長崎開港から「鎖国」まで：①ポルトガル人の寄港②オランダ・英国の日本到着③秀吉、家康のキリスト教政策の変遷④長崎口への情報・風説書

II 長崎の町の成り立ち：①長崎開港：内町・外町の形成②長崎の支配・行政機構③蘭通詞と唐通事④宿町・附町⑤丸山遊郭

III 出島と唐人屋敷：①出島でのオランダ人の暮らし②唐人屋敷での暮らし③唐人の行事・唐人文化

IV 長崎貿易：①貿易品・シュガーロード②幕府の貿易制度の変遷③「信牌」問題④漂流民

3. 学習のまとめ

・江戸幕府は貿易を必要としたが、キリスト教は統治の障害と判断する。ポルトガルを追放し、オランダ・中国人を出島と唐人屋敷に閉じ込め長崎貿易を継続した。

・長崎奉行の最大の任務は外国貿易の監督であり、長崎町民のほとんどは貿易に関わる業務に従事した。来航船の減少や貿易制度の改変は、長崎町民の生活に大きな影響を及ぼした。

・出島や唐人屋敷で暮らす外国人との交流は、外国情報・技術・文化を長崎にもたらし、明治以降の日本の発展の基盤を作った。

4. フィールドワーク

7月に、長崎市を2泊3日で訪問。ガイドさんに出島と唐人屋敷の案内を受ける。「長崎史談会」の理事に、長崎貿易の講義と古い街路で「精荷役」の現地講義を受ける。長崎歴史文化博物館では、長崎貿易の解説、中国・オランダの書画文物を見学した。

和蘭中の卓袱料理を食し、長崎駅の「杵屋」でうどんを食べたが、シュガーロードの町だけにダシは大変甘かった。

